

# 三宅島2000年6月27日に確認された開口割れ目群\*

Open cracks found at Miyakejima on June 27, 2000

産業技術総合研究所地質調査総合センター\*\*

九州大学大学院理学研究院\*\*\*

秋田大学教育文化学部\*\*\*\*

東京大学地震研究所\*\*\*\*\*

Geological Survey of Japan, AIST

Institute of Seismology and Volcanology, Graduate school of Sciences, Kyukyū University

Faculty Education and Human Study, Akita University

Earthquake Research Institute, University of Tokyo

6月27日、前日から始まった火山活動により形成されたとと思われる開口割れ目群が、巡回中の三宅島警察署員により、三宅島西部の都道上など数ヶ所で発見された。この割れ目群の調査を、6月28日から7月1日まで行った。調査には東京都三宅支庁土木課ならびに三宅島警察署、東京消防庁に便宜を図っていただいた。

第1図にそれぞれの割れ目の位置を示す。これらはいずれも北西-南東または西北西-東南東の走向を持つ開口割れ目群であり、一部は上下変動を伴い、グラバーンを作る。割れ目群の西方延長は、変色水が確認された海域であり、震源の移動も考えると、岩脈の貫入により形成された開口割れ目群と考えられる。

## 1. 伊ヶ谷-阿古間都道上、阿古地区北端

A地点：都道上、走向N45WからN70W、全体の幅約50mの雁行状開口割れ目群。ひとつの割れ目の開口量は最大約3 cm、割れ目群全体の開口量は、ガードレールの伸びなどから約12cm程度と推定される。上下変位は南落ち約2~3 cm。横ずれはわずか(1 cm以下)に左横ずれ。

B地点：都道上の北落ち正断層、走向N60W、開口量4 cm、上下変位北落ち9 cm。切り通しの法面にも断層が伸びており、約70度の北傾斜の断層面をつくっている。

C地点：都道縁石を割る、走向およそN10Wの開口割れ目群で、6本確認。開口量は1 cm以下で、開口総量約5 cm程度か。

D地点：阿古地区夕景浜南の開口割れ目群。走向N55WからN70W。開口量最大2 cm、総開口量約5 cm。上下変位、横ずれはほとんどない。西縁では防波堤を割り、東へ住宅地を横切り、集落東縁の沢の先まで伸びている。

## 2. 阿古地区

開口割れ目、地溝状割れ目が、おおよそN70WからN50Wの走向で、ほぼ直線上に並ぶ。横ずれ変位はほとんど認められない。

E地点：1643年溶岩流を切る開口割れ目群、走向N55W、開口量2 cm以下の開口割れ目が3つあり、総開口量約5 cm。上下変位、横ずれはない。

F地点：1643年溶岩流上、天草干し場周辺の開口割れ目群。走向N50WからN60W。開口量は最大2 cm、多くは1 cm以下で、少なくとも4本。上下変位、横ずれはない。ふるさとの湯周辺にも開口量1 cm程度、同走向の開口割れ目群がある。

G地点：住宅地を横切る地溝状開口割れ目。全体の走向はN70W、総開口量は約13cm。横ずれはほとんどない。上下変位量は最大15cm、長さ約200mのグラバーン状の割れ目を形成する。グラバーンの幅2 mから5 m。東端

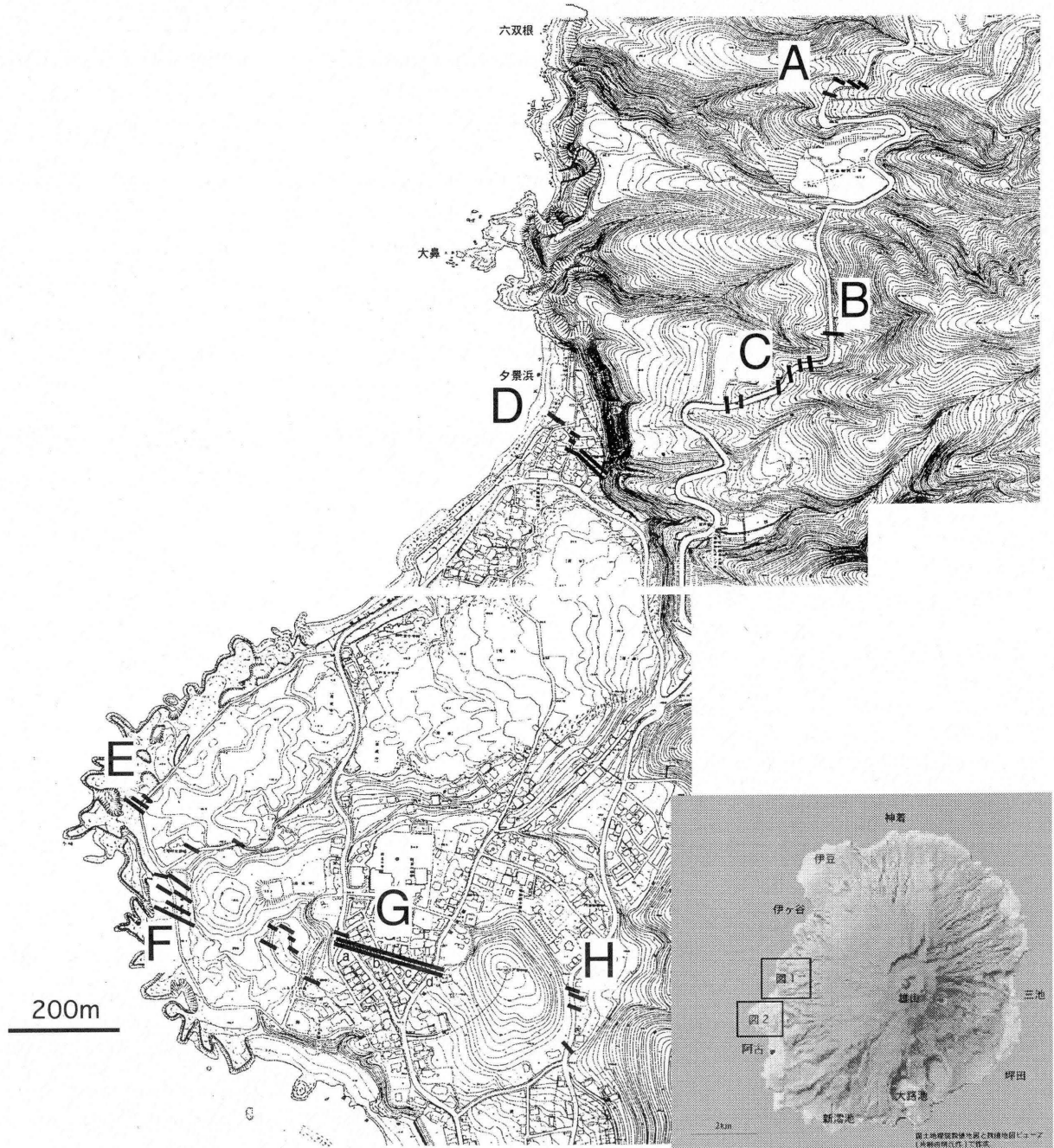
\* Received 4 Sep., 2001

川辺禎久\*\*・松島 健\*\*\*・林信太郎\*\*\*\*・金子隆之\*\*\*\*\*・中田節也\*\*\*\*\*

Yoshihisa Kawanabe, Ken Matsusima, Shintaro Hayashi, Takayuki Kaneko and Setsuya Nakata

の都道を横切る地点では、水道管を切断している。

H地点：割れ目群の東端。開口量2 cm以下の開口割れ目が少なくとも4本ある。上下変位、横ずれはほとんどない。  
ここでも水道管を切断している。



第1図 2000年6月末に確認された開口割れ目分布  
Fig.1 Open cracks found on June 27, 2000.